

### 3. 中心市街地の活性化の目標

#### [1] 金沢市中心市街地活性化の目標

金沢市は、中心市街地を中心に、歴史資産や地域資源に立脚したまちづくりを進め、全国的な認知度やブランド力を高めることで、交流人口の拡大を図ってきました。

しかし、平成27年の北陸新幹線金沢開業を契機に、特定の観光地への入り込みが急増したことにより、住民の生活環境の悪化が懸念されています。金沢のブランド力は、住民の豊かな暮らしに支えられており、上質かつ快適な日常生活が可能な中心市街地を目指すことが何よりも重要です。

また、4市2町から構成する石川中央都市圏において自立的な経済・生活圏の形成を目指すためにも、連携中枢都市である金沢市の中心市街地の活性化は喫急の課題であり、中心市街地の求心力を高めることにより、交流人口を拡大し、その経済効果を市全域から広域に波及させ、圏域全体の持続的な経済の活性化を推進していく必要があります。

#### 目標：1 まちなかの定住者を増やす

金沢固有の自然、歴史、伝統文化、社会資本ストック等を有効活用し、開発と保全の調和を図りながら、多様な都市機能を集積させ、まちなか居住のメリットを高めることが定住者を増やすために重要です。区域外からの定住者（特に若年層）の促進を図り、高齢化を食い止めるため、住宅供給や公益施設の充実を図ります。

#### 目標：2 幅広い年代を対象とする魅力ある商業環境を作る

都心軸沿線上の老朽建築物の再整備を図り、安全性を向上させるとともに、幅広い年代が利用しやすい商業環境を創出し、中心市街地への住民の回帰を目指していくことが求められています。民間と行政が連携した市街地再開発の推進のほか、新たな来客層を獲得するため、魅力的なイベントの開催など中心市街地ならではの付加価値を高めます。

#### 目標：3 公共交通を優先したまちなかの交通環境を整える

中心市街地は、城下町の街路構造を受け継いでいるため、大規模な都市基盤構造整備は、まちの魅力を損ねることになります。現状の都市構造のなかで、中心市街地へ容易にアクセスでき、安心して回遊できる環境づくりを進めることが求められています。中心市街地を核として、公共交通の優先度と利便性向上、歩行空間・自転車通行空間の充実、駐車場の再配置など、公共交通を中心とするネットワークの構築に取り組みます。

#### 目標：4 歴史文化資産を活かし市民・来街者を引きつける

金沢市では、中心市街地において歴史資産や地域資源に立脚したまちづくりを進め、歴史や文化的魅力を発信することで、来街者の増加につなげてきました。この取組は北陸新幹線金沢開業により、大きな成果を上げています。歴史資産や地域資源の保全活用、新しい文化の創造を更に進めることにより、金沢の求心力を維持、向上させます。

[2] 計画期間 計画期間は、平成29年4月から令和4年3月までの5年間とします。

### [3] 目標指標の設定の考え方

#### 【 指標の設定について 】

4つの目標毎に毎年計測可能な数値目標指標を設定し、目標の達成状況を的確に把握します。

#### 1. 「まちなかの定住者を増やす」に関する数値目標指標

- ① 中心市街地の45歳未満人口の年間社会動態
- ② まちなか住宅支援制度の活用による県外からの移住者数

第2期計画では、第1期計画からの施策の推進効果を継続的に把握していくため、第1期計画と同じ「中心市街地の人口の年間社会動態」を目標指標として設定しました。第1期からの継続した定住促進等の取組により、現状値（平成24～27年の平均値）は、+149人と大きく好転しています。

新たな計画では、中心市街地の定住者増加に加え、超高齢化を食い止めるため若い世代の居住人口の増加を目指し、中心市街地の45歳未満人口の年間社会動態を指標として設定します。

また、金沢版総合戦略との整合性を図るため、「まちなか住宅支援制度の活用による県外からの移住者数」を設定し、定住促進と中心市街地で送る金沢らしい生活の魅力を発信する取組が、相乗的な効果を上げているかを図るための指標とします。

#### 2. 「幅広い年代を対象とする魅力ある商業環境を作る」に関する数値目標指標

商店街店舗の新規出店数

これまでの計画では、商業・業務施設の集積による商業の活性化や歩行者の増加による「にぎわい」を測るため「主要商業地の休日の歩行者・自転車通行量」を指標として設定してきました。これは、中心市街地の来街者の動向を把握するとともに、自動車に依存しない中心市街地づくりが進捗しているかを把握するために設定したものです。

新たな計画では、活性化の取組が、商業の活性化に与える効果を的確に把握するため「商店街店舗の新規出店数」を設定します。また、金沢市が毎年実施するアンケートにおいて「中心市街地に買い物・飲食目的で来街する割合」を調査し、参考指標とすることで、達成状況を補完します。

### 3. 「公共交通を優先したまちなかの交通環境を整える」に関する数値目標指標

バス乗客者数

市民アンケートの結果から、中心市街地活性化のために公共交通の充実を求める声が多いことが分かりました。第2期計画では「過度に自動車に依存しない中心市街地」の目標指標として、市民の日常の移動手段としての都市内交通の充実と、来街者のまちなか回遊性向上のための二次交通の充実を目的に実施している、公共レンタサイクル「まちなかのり」の利用回数を目標指標に設定し、現況値では目標を大きく上回る数値となっています。しかし、利用者アンケートから利用者の9割が観光目的の来街者であることが推測され、市民の日常の移動手段として浸透しているとは言いがたい状況にあります。

そこで、本計画では、公共交通を優先したまちなかの交通環境の向上の指標として、本市における主要な交通機関\*であるバスの乗客者数を目標指標とします。

\*第4回パーソントリップ調査によるまちなかにおける公共機関分担率（バス 20.0%）

### 4. 「歴史文化資産を活かし市民・来街者を引きつける」に関する数値目標指標

- ① 中心市街地の市文化施設（14施設）の利用者数
- ② 外国人入り込み客数

第2期計画では、「交流」を示す指標として、「中心市街地の観光施設の利用者数」を指標に設定し、来街者の増加を確認しました。新しい計画では、来街者の急増による住民の中心市街地離れを防ぐことや、来街者と住民が調和した中心市街地を目指していることから「観光施設」の利用者数ではなく、利用者に占める市民の割合が減少傾向にある\*「文化施設」の利用者数を指標として設定します。

また、中心市街地の魅力発信による成果を測る指標として「外国人入り込み客数」を設定、訪日外国人旅行者による活性化施策を進める金沢版総合戦略との整合を図ります。

\*文化施設利用者の居住地の割合（文化施設利用者アンケート）

	H23	H24	H25	H26	H27
金沢市内	39%	40%	35%	35%	26%
金沢市外	10%	12%	12%	10%	8%
石川県外	51%	49%	53%	55%	66%

#### 【フォローアップの時期及び方法】

設定した6指標については、いずれも計画期間の各年度に、目標指標の現況値や事業の進捗状況を把握し、達成状況を確認します。また、達成状況に応じて、事業の追加や内容変更など目標達成に向けた措置を講じます。

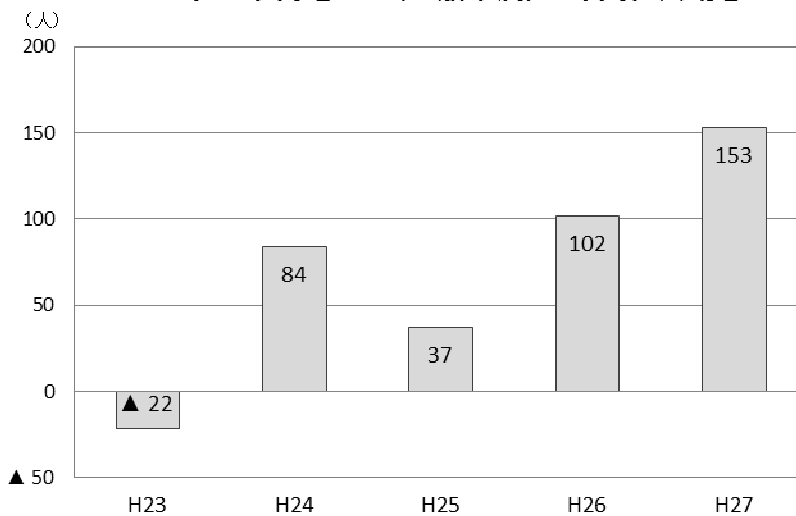
【 目標数値の設定について 】

(1) 「まちなかの定住者を増やす」に関する数値目標

数値目標① 中心市街地の45歳未満人口の年間社会動態



中心市街地人口(45歳未満)の年間社会動態



出所: 金沢市資料

(ア) まちなか定住促進事業による増加分 … 16.9 人 / 年

過去10年間のまちなかにおける戸建て住宅の新規着工件数は下表のとおり推移しています。建築基準法の改正やリーマンショックなどで新築住宅の需要が減少、その後、消費税増税前の駆け込み需要の反動により平成26年は減少します。金沢市内における新規着工住宅戸数も、全国の動向と同様の傾向を示しているものの、まちなか区域の平均を見ると増加傾向にあり、まちなか定住促進事業等の支援が一定の効果を上げているものと考えられます。

■新規着工住宅戸数(戸建住宅)の推移

	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	平均
戸建住宅(市全域)	2,209	1,897	1,790	1,647	1,919	1,816	1,944	2,171	1,900	1,992	1,929
対前年比(金沢市)	102%	86%	94%	92%	117%	95%	107%	112%	88%	105%	100%
戸建住宅(まちなか)	197	136	147	117	125	128	117	166	128	166	142
対前年比(まちなか)	115%	69%	108%	80%	107%	102%	91%	142%	77%	130%	102%

資料: 金沢市

(参考) 全国及び県内の新規着工住宅戸数(戸建住宅)の推移

	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	平均
全国	1,285,246	1,035,598	1,039,214	775,277	819,020	841,246	893,002	987,254	880,470	920,537	947,686
対前年比(全国)	103%	81%	100%	75%	106%	103%	106%	111%	89%	105%	98%
石川県内	9,537	8,851	7,579	6,210	6,706	6,658	6,407	7,421	6,766	7,083	7,322
対前年比(県内)	108%	93%	86%	82%	108%	99%	96%	116%	91%	105%	98%

資料: 住宅着工統計

まちなか区域における過去5年の平均増減率により、まちなか定住促進事業の終期である令和2年度までの新規住宅着工見込みを推計したのが下表です。

	H23-27 平均	H28 推計	H29 推計	H30 推計	R1 推計	R2 推計	H29-R2 合計
戸建住宅(まちなか)	141	152	164	178	192	207	741
前年比	108%	108%	108%	108%	108%	108%	

各年の増加分(8%)をまちなか定住促進事業の効果とすると、合計741戸と前年度比100%で推移した場合の4年間の合計608戸の差である「133戸」が、事業実施により増加したと考えられます。

$$133戸 \times 0.48^{*1} \times 0.63^{*2} \times 2.1人^{*3} \div 5年間 = 16.9人$$

\*1 まちなか定住促進支援制度利用者(H24-27)における、区域外からの転居者の割合

\*2 まちなか定住促進支援制度利用者(H24-27)における、45歳以下の割合

\*3 平成27年度国勢調査(速報値)における中心市街地の平均世帯人員数

#### (イ) 共同住宅の供給による増加分 … 44.5人 / 年

金沢駅武蔵南地区第一種市街地再開発事業では、分譲マンション(約120戸)と商業施設で構成される複合施設が計画されている。また、まちなか住宅促進支援制度のひとつであるまちなかマンション購入奨励金の支給対象となる認定マンション1棟が民間事業者によって堀川新町に建設予定であり、過去5年間と同水準程度、共同住宅の供給による増加が見込まれます。

$$(120戸 + 230^{*4}戸) \times 0.48^{*1} \times 0.63^{*2} \times 2.1^{*3} \div 5年間 = 44.5人$$

\*4 第2期計画期間に供給された、まちなかマンション購入奨励金認定マンションの戸数

#### (ウ) 金澤町家情報館運営事業による増加分 … 0.6人

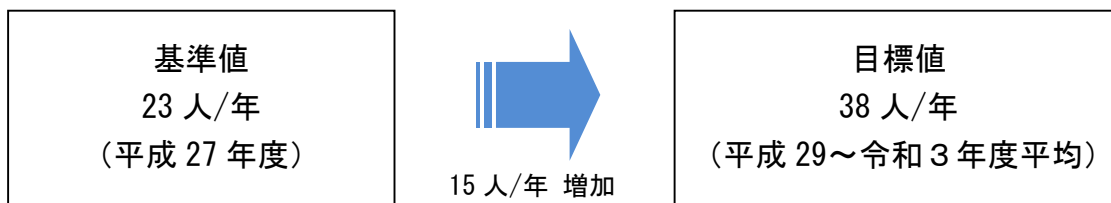
平成28年11月に完成した金澤町家情報館が、修繕や売買・賃貸、移住や起業など、金澤町家に関する、総合相談窓口、魅力や情報発信、生活文化体験の場として機能することにより、金澤町家流通促進事業の強化につなげ、金澤町家の居住者増加を図ります。

金澤町家情報館運営事業の効果により、金澤町家再生活用事業(住宅)の平成29～令和3年度の目標件数を、50件(10件/年)に設定します。

$$5戸^{*5} \times 0.48^{*1} \times 0.63^{*2} \times 2.1^{*3} \div 5年間 = 0.6人$$

\*5 10件(目標件数) - 9件(金澤町家再生活用事業の実績9件/年) × 5年

## 数値目標② まちなか住宅支援制度の活用による県外からの移住者数



金沢版総合戦略において「金沢らしさを生かした移住・定住の促進」の重要業績評価指標 (KPI) として、「住宅支援制度の活用による県外からの移住者数」を、令和元年度には77人 (年間6人増加) とすることを目標に掲げています。そこで、本計画の目標値は、データを取り始めた平成26～27年の実績から、このうちの半数がまちなか居住を選択すると仮定し、5年間平均で「38人」と設定しました。

(単位:人)

	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3
住宅支援制度を活用した県外からの移住者数(金沢版総合戦略)	47	53	59	65	71	77		
うち まちなか区域への移住者数	18	26	29	32	35	38	41	44

H26は実績値、H27以降は目標値

### ■住宅支援制度を活用した県外からの移住者数

	H26	H27	2年間合計(割合)
まちなか区域 (A)	18人	23人	41人 (48%)
区域外 (B)	29人	14人	43人 (51%)
金沢市全域 (A) + (B)	47人	37人	84人

### (ア) まちなか住宅支援制度 (まちなか定住促進事業等) による増加分 … 10人/年

U J I ターン世帯による、まちなか区域での住宅の購入及び空き家の内部改修に対する助成金加算制度や要件緩和を実施することにより移住者の増加につなげます。

$$5\text{件/年}^{*1} \times 2.1\text{人}^{*2} = 10.5\text{人/年}$$

\* 1 支援制度の拡充による増加想定件数

\* 2 平成27年国勢調査における中心市街地の平均世帯人員数

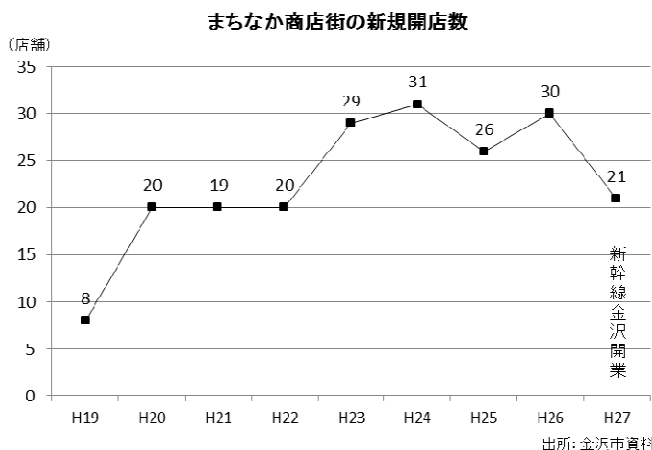
### (イ) 新たなライフスタイルの提案等による増加分 … 6人/年

まちなか定住促進事業において、歴史、伝統文化が今に残る豊かな都市環境を有する金沢ならではの暮らしを首都圏等において提案する事業等の展開により、首都圏等からの移住や二地域居住等の促進につなげます。

$$3\text{件/年}^{*3} \times 2.1\text{人}^{*2} = 6.3\text{人/年}$$

\* 3 年間相談件数62件 (H27定住フェア実績) のうち5% (石川県移住相談窓口利用者における移住者の割合) が移住すると想定。

(2) 「幅広い年代を対象とする魅力ある商業環境を作る」に関する数値目標  
 数値目標③ 商店街店舗の新規出店数



(ア) ファッション・アート交流拠点人材育成事業による増加分 …… 1 店舗/年

平成 29 年 4 月にオープンを予定するファッション・アート交流拠点における、起業支援や人材育成を目的とした事業の実施により、商店街での新規出店を支援し、年間 1 店舗の新規出店を目指します。

(イ) 中心市街地出店促進事業・歩行者通行量の増加にともなう増加分 …… 5 店舗/年

- ・ 豎町周辺地区における新規出店 2 店舗/年

平成 29 年にホテル開業とファッション分野の専門学校の一部移転が予定されているため、観光客及び若年層の歩行者通行量の増加が予想されており、年間 2 店舗（北陸新幹線金沢開業年（平成 27 年）までの 5 年間の豎町商店街における新規出店数の平均値）新規出店を見込みます。
- ・ 武蔵周辺地区における新規出店 3 店舗/年

近江町市場に隣接しており、観光客の増加による恩恵を受けやすいエリアであるうえ、令和元年度に近江町市場複合商業施設整備事業が完了することにより、さらなる賑わいが予想されています。近江町市場の空き店舗は、北陸新幹線金沢開業により解消されているため、周辺の武蔵商店街などで、年間 3 店舗（平成 27 年までの 5 年間の武蔵商店街における新規出店数の平均値）新規出店を見込みます。

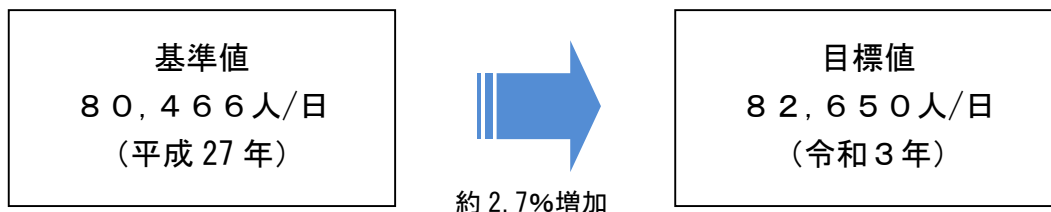
**(ウ) 中心市街地賑わい創出事業・中心商業地集客促進事業にともなう増加分・・・1店舗/年**

中心市街地の商店街が連携し、集客事業を実施することにより、中心市街地区域内での買い回りを増やします。

※ (ア) ～ (ウ) に掲げた事業の他、「体験・滞在型店舗誘致促進事業」、「中心市街地チャレンジ出店促進事業」等の事業の実施により、商店街店舗の新規出店数の一層の増加を目指します。



(3) 「公共交通を優先したまちなかの交通環境を整える」に関する数値目標  
数値目標④ バス乗客者数



平成27年度に策定した交通によるまちづくりを実現するための具体的な行動計画である「第2次金沢交通戦略」では、中期目標として令和4年度の公共交通利用者数を平成27年度から1万人増加させることを目標に掲げています。平成26年度における各公共交通手段の分担率が今後も変わらないと仮定し、この目標値から令和3年度の1日当たりのバス乗客者数を「82,650人」と設定しました。

	H25	H26	H27 現況値*	R3	R4 目標値*
公共交通利用者数	103,580	104,179	110,000	118,580	120,000
バス	71,087	72,541	80,466	82,650	83,640
JR	27,456	26,720		30,356	30,720
私鉄	5,036	4,918		5,573	5,640

(ア) パーク・アンド・ライド事業による増加分 … 684 回/日

中心市街地への通勤手段を自家用車から公共交通へ転換させるため、通勤時パーク・アンド・ライドの整備を推進することにより、恒常的にバスの乗客を確保します。

$$518人^{*1} \times 2回^{*2} \times 241日^{*3} \div 365日 = 684回/日$$

\*1 第2次金沢交通戦略における令和3年までの利用者増加目標値 518人

\*2 通勤時のバス乗車回数 (1往復)

\*3 年間出勤日数 (土日、国民の祝日、年末年始を除いた日数)

(イ) 第2次金沢交通戦略推進事業 公共交通重要路線の強化による増加分 … 1,500回/日

郊外の生活拠点から中心市街地へ向かう主要な路線を「公共交通重要路線」と位置づけ、定時性、速達性、運行頻度を高めることで、公共交通利用者の増加につなげます。

$$13路線^{*4} \times 14人^{*5} \times 13便 \times 241日^{*3} \div 365日 = 1,562回$$

\*4 第2次金沢交通戦略における公共交通重要路線のバス路線数

\*5 バス1台あたりの乗客目標数 (定員70人×20%)

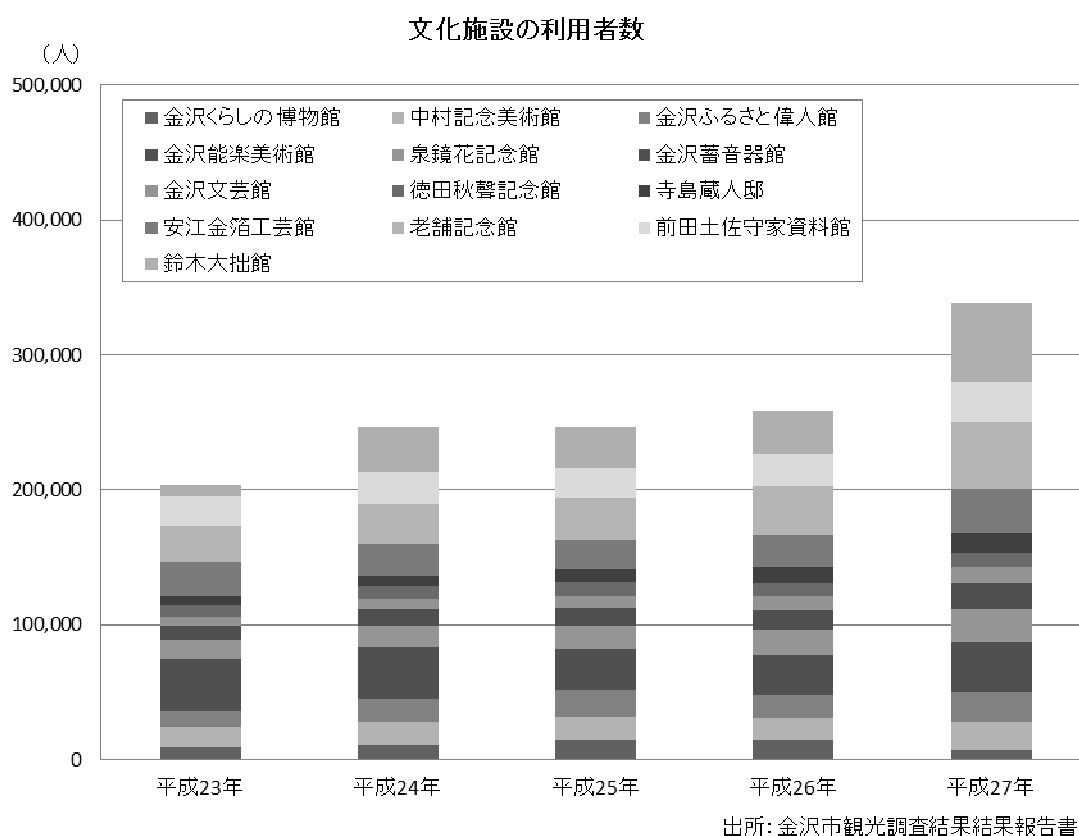
※ (ア) ~ (イ) に掲げた事業の他、「モビリティ・マネジメント推進事業」等の事業の実施により、バス乗客数の一層の増加を目指します。

(4) 「歴史文化資産を活かし市民・来街者を引きつける」に関する数値目標  
 数値目標⑤ 中心市街地の市文化施設（14施設）の利用者数



市文化施設（14施設）の内訳

金沢くらしの博物館、中村記念美術館、金沢ふるさと偉人館、金沢能楽美術館  
 泉鏡花記念館、金沢蓄音器館、金沢文芸館、徳田秋聲記念館、寺島蔵人邸  
 安江金箔工芸館、老舗記念館、前田土佐守家資料館、鈴木大拙館  
 建築文化拠点施設（令和元年開館予定）



**(ア) 夜のにぎわい創出・発信事業、本多町茶の湯空間整備事業等による地元客の増加分**

… 24,900人

各文化施設による定期的なイベントや夜間開館や市民の利用頻度が高い茶室の整備により市民のまちなかでの文化活動の促進を図り、平成24年から平成26年（北陸新幹線金沢開業前年）までの増加率と同じ、前年度比4%増を目指します。

■文化施設の地元客利用数（試算）

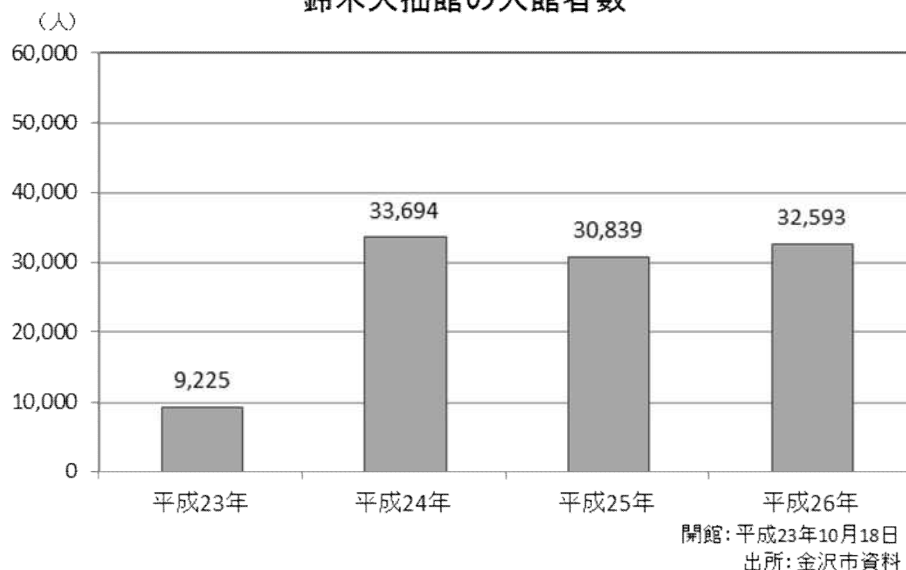
年度	基準値*1	H29	H30	R1	R2	R3	R3-基準値
	115,146	119,751	124,541	129,522	134,702	140,090	24,944
対前年比		4%	4%	4%	4%	4%	

\*1 平成27年度利用者数に利用者アンケートでの市民及び県内容の割合34%を乗じた

**(イ) 建築文化拠点施設整備事業による増加分 … 30,000人**

令和元年度に完了する建築文化拠点施設の年間利用者数を、設計者を同じくする鈴木大拙館の開館3年目の利用者数と同程度と想定します。

鈴木大拙館の入館者数

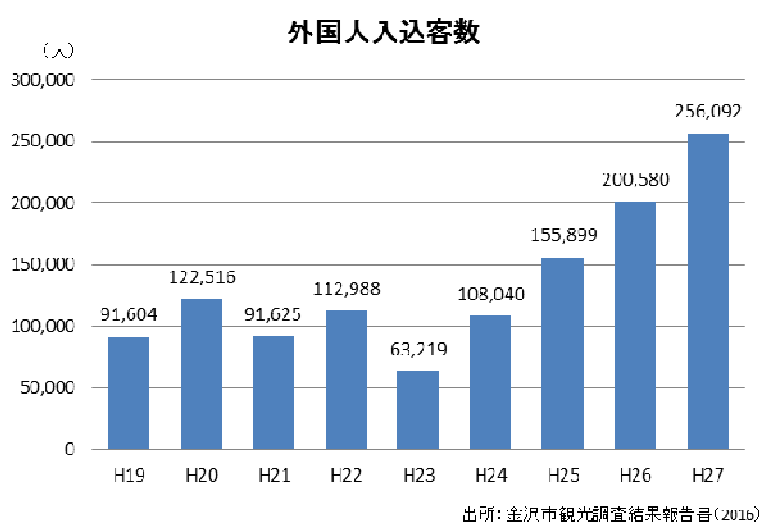


※ (ア) ~ (イ) に掲げた事業の他、「文化施設活性化推進事業」、「茶の湯のまち金沢魅力発信事業」等の事業の実施により、中心市街地の市文化施設の利用者数の一層の増加を目指します。

## 数値目標⑥ 外国人入り込み客数



金沢版総合戦略において「新幹線開業による観光産業の強化 訪日外国人旅行者（インバウンド）施策の充実」の重要業績評価指標（KPI）として、外国人入込客数を、令和元年度には33万人とすることを掲げています。



### (ア) インターナショナルブランドホテル整備事業による増加分 … 62,000人

インバウンドの更なる強化を図るため、外国人富裕層をターゲットとする高級外資系ホテルの整備を行います。

$$720人^{*1} \times 0.79^{*2} \times 0.30^{*3} \times 365日 = 62,283人$$

\*1 収容人数（金沢市試算）

\*2 旅行統計調査（観光庁） 平成27年シティホテル稼働率（石川県）

\*3 旅行統計調査（観光庁） シティホテル外国人宿泊者率（東京都）

### (イ) KOGEI かなざわ開催による増加分 … 10,000人

本市の文化的資産を代表する「工芸」をテーマとした国際的なイベントを開催します。

$$100,000人^{*4} \times 0.10^{*5} = 10,000人$$

\*4 想定集客数（金沢市試算）

\*5 兼六園における外国人来場者の割合（平成27年）

(ウ) MICE誘致戦略推進事業による増加分 …… 3,100人

$$17,595人^{*6} \times 1.5^{*7} \times 0.12^{*8} = 3,167人$$

\*6 国際コンベンション参加者数（平成27年3月の北陸新幹線金沢開業による影響を考慮、平成26年度と平成27年度の平均値を使用）

\*7 MICE誘致戦略事業による想定増加率（参考：石川県観光プラン増加率）

\*8 平成26～27年度国際コンベンション実績における外国人参加者数の割合

(エ) 東京国立近代美術館工芸館移転整備事業による増加分 …… 1,900人

国内随一の近現代工芸コレクションを有する国立工芸館が、本多町歴史文化ゾーンに移転することにより、外国人観光客が高い関心を寄せる日本の歴史伝統文化に関する施設の集積が進む（日本庭園、工芸、茶の湯、能楽など）ことにより、外国人観光客の増加を見込みます。

$$40,007人^{*9} \times 0.048^{*5} = 1,920人$$

\*9 国立工芸館の常設展入場者数（平成23～27年度の平均）

\*10 4.8%（類似施設である中村記念美術館の平成28年度上半期外国人入場者率）

(オ) その他事業実施などによる増加分 …… 67,000人

・国際的な音楽・アートイベントの開催などの各種ソフト事業の実施、大きな誘客要因となっている歴史的景観の整備を進めます。

$$256,000人^{*11} \times 0.2^{*12} = 51,200人$$

\*11 基準値（平成27年）

\*12 想定増加率 20%（H24からH27までの音楽イベント\*の来場者増加率）

\*ラ・フォル・ジュルネ音楽祭 in 金沢、金沢アカペラ・タウン、金沢JAZZ STREET

・加賀百万石「金沢城四季物語」開催事業、夜のにぎわい創出・発信事業等の夜間イベントの実施により中心市街地での滞在時間を延長し、外国人観光客の宿泊を促します。

$$\text{ホテル4棟}^{*13} \quad 362人^{*13} \times 0.79^{*2} \times 0.15^{*14} \times 365日 = 15,657人$$

$$\text{簡易宿所1棟}^{*13} \quad 100人^{*13} \times 0.23^{*15} \times 0.02^{*16} \times 365日 = 167人$$

\*13 今後予定される民間の宿泊施設整備（(ア)国際ブランドホテル整備事業を除く）

\*14 // による想定収容人数

\*15 旅行統計調査（観光庁） 平成27年シティホテル外国人宿泊者率（石川県）

\*16 旅行統計調査（観光庁） 平成27年簡易宿所稼働率（石川県）

\*17 旅行統計調査（観光庁） 平成27年簡易宿所外国人宿泊者率（石川県）

※ (ア) ~ (オ) に掲げた事業の他、「外国人等プレミアムツアーコーディネート事業」や「文化施設活性化推進事業」等の事業の実施により、外国人入込み客数の一層の増加を目指します。